

2017年度課題発見ゼミナール

熊坂・佐藤・山口クラス

テーマ「障害について考える」

※「合同クラス」として希望を受付ます。
よって、定員の上限は45名。

テーマの趣旨

- 「障害を持つ人を支援しなくてはならない」ということに反対する人はいないだろう。
 - しかし、具体的に何をすれば「支援」になるのか？
- 二つの典型的考え方：医療モデルと社会モデル
 - **医療モデル**：障害は個人の問題なので、支援は個人の治療や保険制度が中心になる。
 - **社会モデル**：障害は、個人と社会の関係性の問題なので、対応は公共施設の「バリアフリー化」など、社会の側の変革が中心になる。

授業の目的＝身につけるべき能力

- 多面的な見方：「当たり前」「よいこと」と思われていることに潜む「暴力性・加害性」を自覚する。
 - ことわざ「地獄への道は善意で舗装されている」
- 論理的思考：思いつき・思い込み・感情でなく、事実と論理に基づいて判断する。
 - 事実と論理に基づいて、
 - 自分の意見を主張する。
 - 相反する考えの人とも対話し、合意形成する。

授業の概要＝具体的な作業

- 文献を調査する。
 - 実地調査に行ってもかまいません。
 - 内容をまとめて、他の学生に報告する。
 - 「障害学」についての基本的な知識を共有する。
- 根拠を示して自分たちの意見を主張する。
 - 事実と論理に基づいて、グループメンバー内で合意形成する。
- パワーポイントを使った発表会
 - 引用や文献表など、基本的な形式にのっとり資料を作成する。
 - 他のグループの発表を聞いてディスカッションし、評価する。

授業計画

最初の三回は、合同で行います。

- ① 講義「障害とは何か(1)心理学的観点から」(佐藤)＋質疑応答
 - ② 講義「障害とは何か(2)倫理的観点から」(熊坂)＋質疑応答
 - ③ 講義のまとめとプレゼンテーションの基礎・文献検索法等(山口)
- その後、クラスに分かれて共同研究
 - 学期末に発表会。

夏休みにも読書に挑戦。

参考文献

- 倉本智明『だれか、ふつうを教えてください』理論社、2006年。
- 石川准他『障害学の主張』明石書店、2002年。
- 寺本晃久他『良い支援？』生活書院、2008年。
- 山下幸子『「健常」であることを見つめる』生活書院、2008年
- 立岩真也『私的所有論』勁草書房、1997年(第二版：生活書院、2013年)。
- 保坂展人『相模原事件とヘイトクライム』岩波ブックレット、2016年。
- 横田弘『障害者殺しの思想』現代書館、2015年。

つづき

- マーサ・C・ヌスパウム『正義のフロンティア』法政大学出版局、2012年(主に2-3章)。
- エヴァ・フェダー・キティ『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』2010年(第3部から読むとよい)。
- 松田隆夫『「知覚不全」の基礎心理学』ナカニシヤ出版、2007年。
- 金澤貴之、大杉豊編『一歩進んだ聴覚障害学生支援: 組織で支える』生活書院、2010年。
- 澁谷智子『コーダの世界: 手話の文化と声の文化』医学書院、2009年。
- 成松一郎『ユニバーサルデザインってなに?』あかね書房、2006年。
- 高橋明『障害者とスポーツ』岩波書店、2004年。

一学期間の構成:3つのステップ

- ① 基礎的な知識を身につける
 - 最初3回の講義
 - その後の個別クラスでの共同研究
 - まずは、各自が読んできた本の紹介と質疑応答。
- ② 「論じるべき点」を見つける
 - 基礎的な知識が共有されてきたところで、「論じるべき点」についての合意を形成する。
 - 足りない部分については引き続き文献を読む。
- ③ 発表原稿を作成する
 - 各自が書いてきた内容をもとに、よりよい原稿に。
 - 足りない部分については引き続き文献を読む。

本を読んだら「読書ノート」に記録

- 概要・重要な論点
- 考えを深めるべき点・自分なりのアイデアなどをまとめる。
- 次に読むべき本
 - 本(研究文献)には、「文献一覧」がついている。
 - 本文中で何度も言及された本、重要なものとして取り上げられた本などを、次に読んでみる。
 - その分野の体系的な知識を身につける

ここで学んでほしいのは、すべての研究の基礎。

- 文献を読み、その分野における**基礎的な知識**を身につける。
 - 複数の文献を読み、**多様な視点**を身につける。
 - **根拠を示しつつ**、自分の意見を主張する。
 - 対立する意見を持つ人と**対話し、合意形成**する。
- 民主主義社会を支える**必須の能力**でもある。

受講者へのメッセージ(熊坂)

- 「考えること」と「他者に伝えること」は、誰もが日常的に行っています。しかしそこに「論理的に」や「わかりやすく」といった修飾語をつけ加えると、誰もが簡単にできることではなくなります。この授業は、そのための技術習得に向けた練習機会です。積極的に臨んでください。

- 自分の考えや主張を他者に納得・理解させるためには、どのように話を組み立て、どのような資料を準備する必要があるでしょうか？この授業では、調査研究を通して、そのスキルを身につけてもらいます。今年度は障害をテーマとしますので、視覚・聴覚・言語を積極的に活用し授業に臨んでください。(佐藤)
- 「考えること」も一つの技術です。決まりや作法がありません。自分の好きなことだけ自己流でやっても決して「考える力」は身に付きません。この授業では正しく考えるための基礎的な技術を伝授します。技術の習得には反復練習が必要です。苦勞して得た技術だけが、他の人にはマネのしがたい「自分だけの財産」になります。がんばってください。(山口)